

# ちやんと かわら版

## 北海道の地産地消にエール 「キリン一番搾り北海道応援缶」出荷式



キリンビール北海道千歳工場（北村茂樹工場長）は6月24日、道内限定で販売される「キリン一番搾り北海道応援缶」の出荷式を同工場の製品倉庫で行いました。当日は、工場のスタッフや市の関係者ら約20人が出て地産地消の推進に役立てる商品で、昨年は約38万4900円を寄付しています。

新緑と北海道への応援を表す特別パッケージを制作。同工場が製造するビールを充填した350ml缶6缶パック約18000ケースを出荷し、6月28日より販売しています。

出荷式では、北村茂樹工場長（写真右）が挨拶した後、同社セールスサポート部長下達哉副部長が商品開発の経緯を説明。来賓の山口幸太郎千歳市長（写真左）が「千歳市のおいしい水を使ったビールが、北海道の地産地消に寄与する商品として流通することは代えたい喜びです」と祝辞を述べました。

フォークリフトでトラックに商品を積み込み、出荷の準備を終えると、テープカットを実施。最後に、参加者全員で工場を出発するトラックに手を振りました。

北村工場長は「約170人のスタッフが日々ビール造りに励んでいます。千歳市はもちろんです。北海道の皆様へ支えられていますことに感謝します」と謝意を表明。「千歳市内では今年、夏のイベントが再開します。ビールの提供を通して、幸せなひとときを過ごすお役に立ちたい」と話していました。

（編集部 木山）

千歳電業協会（豊里2丁目やまでん内）は6月20日、千歳市情報機器整備基金に100万円の寄付を行いました。市長応接室で行われた贈呈式には、山本幸博会長（写真下中央）と山本和宏幹事（写真下左）が出席し、

山本会長が山口幸太郎千歳市長（写真下右）に目録を贈呈。教育行政の推進に寄与する寄付への感謝を込めて、山口千歳市長から山本会長に感謝状が手渡されました。

山本会長は「数年前から積み立てを始め、会員の思いが込められた寄付金です。教育現場の情報機器を整備する費用としていただければ」と挨拶。山口千歳市長は「子どもの教育環境整備に役立つ寄付をありがとうございます」と謝辞を述べ、「デジタルに優れた電子黒板の登場で、授業への集中力が上がっています。DX（デジタルトランスフォーメーション）など新しい時代の動きは、教育関連用品の更新などビジネスチャンスにもつながっています」と

山本会長は「数年前から積み立てを始め、会員の思いが込められた寄付金です。教育現場の情報機器を整備する費用としていただければ」と挨拶。山口千歳市長は「子どもの教育環境整備に役立つ寄付をありがとうございます」と謝辞を述べ、「デジタルに優れた電子黒板の登場で、授業への集中力が上がっています。DX（デジタルトランスフォーメーション）など新しい時代の動きは、教育関連用品の更新などビジネスチャンスにもつながっています」と

（編集部 木山）



## 教育情報機器の整備に活用を 千歳電業協会が 100万円寄付

千歳電業協会は、市内で電気設備工事業を営む9社で構成。2008（平成20）年までに、福祉や緑化振興、奨学資金などの用途で市に70万円を寄付しており、協会設立40周年の節目を記念した今回を含めて、寄付金額の累計は

170万円となりました。

山本会長は「数年前から積み立てを始め、会員の思いが込められた寄付金です。教育現場の情報機器を整備する費用としていただければ」と挨拶。山口千歳市長は「子どもの教育環境整備に役立つ寄付をありがとうございます」と謝辞を述べ、「デジタルに優れた電子黒板の登場で、授業への集中力が上がっています。DX（デジタルトランスフォーメーション）など新しい時代の動きは、教育関連用品の更新などビジネスチャンスにもつながっています」と

寄付金の使途について、贈呈式に同席した市教育委員会の磯部進一教育部長は「まずは基金に積み立てますが、来年度機会があれば、電子黒板の更新に使用する予定です」と話していました。

（編集部 木山）

## 2050年「ゼロカーボンシティ」実現へ 講話や事例で学ぶ セミナー開催

千歳市教育委員会生涯学習課と市民環境部環境課は6月23日、市民教養セミナー「ゼロカーボンシティのためのエネルギー」を市役所第2庁舎会議室で行い、オンラインで同時配信しました。当日は、58人が受講。千歳市が今年2月に表明し、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロの実現を目指す「千歳市ゼロカーボンシティ宣言」に関連した講話や実践事例の発表が行われました。

初めに、北海道大学大学院工学研究院の田部豊教授が講話。温室効果ガスの仕組みや、省エネルギー技術の進歩についてレクチャーしました。

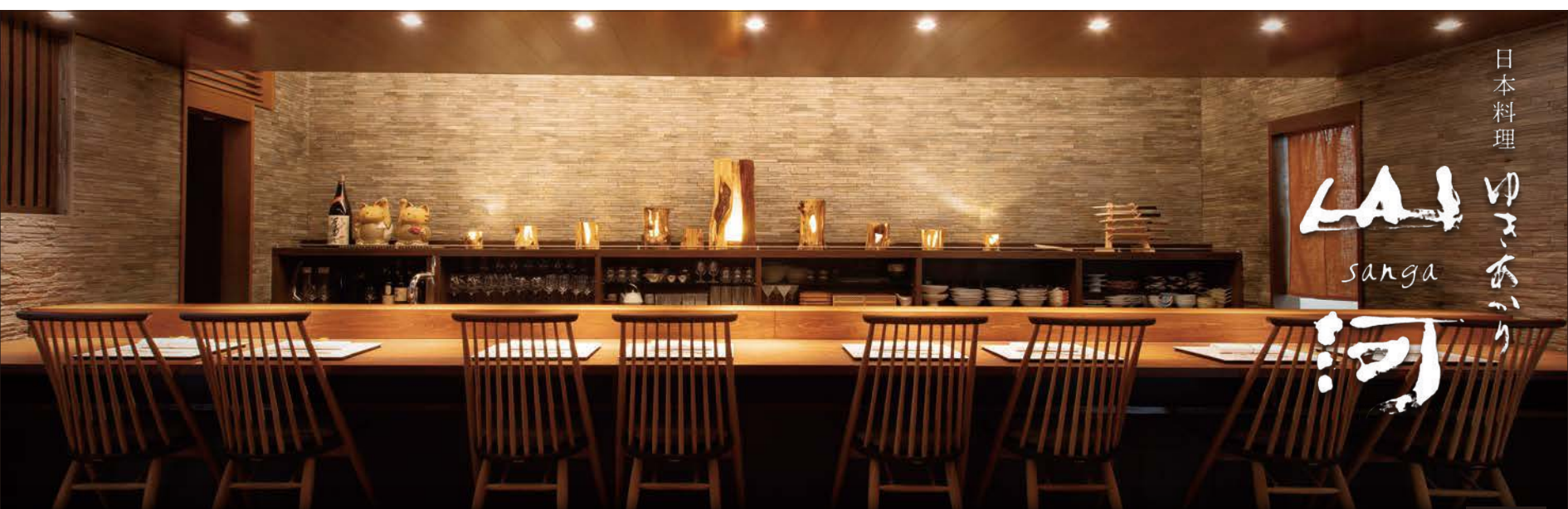
燃料電池や社会全体のエネルギーシステムなどを研究する田部教授は「北海道には、とても大きな再生可能エネルギーのポテンシャル（潜在能力）がありますが、発電設備の整備がほとんど進んでいません」と指摘。「このままでは、2050年までのゼロカーボン達成は不可能です。未来のために、劇的な社会の変化が必要」と話し、時間帯で供給量がばらつく再生可能エネルギーの性質に合わせてライフスタイルを

一新する「楽エネ」（たのえね）を提唱。「エネルギーを気ままに使うのではなく、メリハリをつけて楽しく使える社会像をともに描きましょう。SNSなど、市民による発信が大きな力になります」と呼びかけました。

続いて、市民団体や千歳市に立地する企業が発表。市民団体CLEA NGOの角谷日花里代表は、ごみ拾いとビンゴゲームを組み合わせて環境保全を楽しむ同団体の活動を紹介し、デンソー北海道安全環境担当係の村英和係長は、世界的に環境志向が進む車市場の動向を説明。北海道ガス経営企画グループ宮澤智裕課長は、上士幌町等の自治体と協業して「エネルギーの地産地消」を推進する取り組みについて解説しました。



（編集部 木山）



日本料理

# 山

sanga

ゆきんち

Tel 0123-26-5061 千歳市幸町2丁目3-2  
営業時間/18:00~23:00(最終入店 21:00) 定休日/日・祝・ほか不定休

完全予約制  
ご予約は2日前までにお申し込みください  
詳細、ご予約はコチラからも

